



世界に学び、 世界へ羽ばたけ

半年～1年の交換留学と1カ月程度の短期研修の2つの制度があります。
学生の体験談を紹介します。

交換留学プログラム

オランダ／ゾイド大学

ト部 眞風 経済学部 名東高校(愛知県)
西村 洵哉 教育学部 宮津高校(京都府)

ゾイド大学への交換留学ではOriental Languages & Communication(OTL)、European Studies、International Businessの3つのプログラムから選べます。授業は、レクチャー型(45分)、ワークショップ型(90分)、そして、両方で実施するものもありました。日本の大学授業よりも実践やアウトプットの授業が多かったです。OTLでは「言語文化」「経営学」「スキル系(プレゼンなど)」の学習をしました。英語で現地学生とグループワークをしたり、積極的に意見を交わすなど貴重な体験をしました。

Q ゾイド大学とは？

南部の都市、マーストリヒトに位置する大学。オランダで最も古い町であり、趣深い町並みが魅力です。大学から自転車で20分程度の学生寮で過ごしました。



〔ト部さんの1日のスケジュール〕

06:00-07:30 起床・課題や授業の準備
09:00-10:30 大学の図書館で友達と勉強
10:30-12:00 授業
12:00-13:00 昼休み
13:00-15:45 グループ課題のミーティング、
息抜きにカードゲームも
15:45-17:15 授業
19:30-22:00 スケートボードのコミュニティで
ミーティング、晩ご飯
22:00-23:00 帰宅・就寝



現地では、学部、学生団体、寮など主催者が異なるパーティーや町のカーニバルにも参加できます。バドミントンの市民大会など趣味の活動から交友関係も広がります！(西村)



〔西村さんの時間割〕

	MON	TUE	WED	THU	FRI
08:45			Dutch life and Institutions		
09:30					
10:30	French(Oral)	European Law and Politics(Lecture)			
11:15					
12:15				European Law and Politics (workshop)	
13:00	French(Oral)	Academic Writing			
14:00	Central and Eastern Europe				
14:45					
15:45			French(Grammer)		
16:30					



SkateCafeというストリートカルチャー系のイベントに参加。主催するNPO団体の一員として運営にも携わり、趣味のスケートボードを通じて貴重な経験ができました！(ト部)



交換留学プログラム

台湾／台中科技大学

山田 雅由 経済学部 五条高校(愛知県)

交換留学中は応用日本語学科の授業を中心に履修しました。滋賀大学よりも少人数で講義を行っており、そのため、講義中にプレゼンテーションをすることが多く、最初は言葉が通じない中での台湾人学生との共同作業がとても大変でした。その他にも中国語(台湾華語)の授業も受講し、その授業で出会った他国の留学生とも仲良くなれました。11カ月の留学を通じて沢山の体験をし、帰国後も、台湾で出会った友人たちと交流を続けています。



Q 台中科技大学とは？

台中市の歴史のある大学で、看護学部、デザイン学部、商学部、語文学部等があります。私は語文学部の応用日本語学科で授業を受けましたが、交換留学生はそれ以外にも英語学科、中国語学科や他学部でも授業を受講することができます。

Q 休日の過ごし方は？

休日は、ルームメイトや友達と一緒に、台中市内や台湾の各地に出かけたり、台湾の伝統文化を学ぶイベントに参加したり、いろんなことを体験しました。その体験を通じて台湾の文化等を学び、友達と交流を深められました。



ホームルーム後にクラスメイト達と

留学中の夏休み期間には、大学の隣にある「來來商旅」というホテルで10日間、インターンシップをしました。フロントでの事務作業やハウスキーピングなど貴重な体験をしました。

海外短期研修プログラム

メキシコ／グアナファト大学

桐田 ななみ 経済学部 石山高校(滋賀県)



この研修ではスペイン語の文法・読み書き・会話の3クラスとメキシコ文化を約2週間学びます。スペイン語の語学研修だけでなく、グアナファト大学の歴史、ダンス、料理、クラフトなどの多様なレクチャーを通してメキシコの魅力的な文化を体験することができました。また、滞在中に、カフェの店員やホームステイ先の家族などが話し相手になってくれるため、講義で学んだ表現を活用することで、会話がめきめき上達していきました。

Q ホームステイ先はどんなところ？

印象的だったのは私がホームステイした家にある「大量の椅子」でした。すてきな革張りの椅子やソファが家中に配置されていて、数えてみたところ、40脚以上ありました。いったい、なぜそんなに椅子が必要なのでしょう。それは、メキシコでは死者の祭りなどの行事に、親族が集まって過ごすことが家族の楽しみとなっており、椅子は離れて暮らす家族を迎えるために用意されているそうです。私も再訪したら、椅子に座ってみんなと話したいです。

〔1日のスケジュール〕

08:00-08:40 朝ごはん
09:00-12:00 スペイン語クラス(文法)
12:00-13:00 休憩(お茶やシエスタ)
13:00-15:00 メキシコ文化クラス(料理・ダンス・ビニャータづくり)
15:00-16:30 昼ごはん(仕事を終えた家族が集まって、ゆっくり食事をする時間)
16:30-19:00 自由時間 スペイン語の宿題・夜の散歩
19:00-21:00 晩ごはん



語学学校の校舎

ある日のおやつ。「トスターダス」

留学生に聞く滋賀大学の魅力！

日本とベトナムをつなぐ
経済の学びがもしろい！

母 国の日本語学校で先生から紹介があり、幅広い経済の知識が学べると思い入学しました。さらに共創グローバル人材プログラムで、異文化理解を深めています。1、2回生の間は日本語科目が本当に大変でしたが、そのおかげで日本語力が身につきましたし、中小企業論や英語で学ぶ貿易など興味深い授業をたくさん履修しました。ゼミはマーケティングゼミに所属。日本のスポーツ施設のベトナム展開の可能性について研究しました。



大学祭で仲間と一緒に

Q 一番楽しかった思い出は？

大学祭で、日本人や留学生の仲間と一緒に揚げ春巻などのアジア料理の屋台販売をしたことです！

Q 大学生活で驚いたことは？

関西弁を使う人が多くて、最初は聞き取るのが大変でした。

Q キャンパスのおすすめの場所は？

研究棟6階の階段の窓から見える景色。春は桜満開の彦根城、夏は琵琶湖がきれいで癒されます。

教 員をめざしており、教育学部のある国立大学で就職率がトップということと、勉強に専念できる静かな学習環境が気に入って進学しました。中国の高校では先生の講義を覚えるような授業が多かったので、課題が多いことにびっくり。また、中国の小学校では学んだことのない「生活科」「社会科」などの教科が日本の小学校にはあるので、それを勉強するのも大変です。でも、先生や友達、学生寮の先輩など助けてもらいがんばっています。



寮の演劇祭の様子

Q 滋賀大学のいいところは？

授業の内容で分からないことがあったら、先生がいつも熱心に教えてくれることです。

Q 部活動などをしていますか？

英語のサークルと書道部に入りました。日本人学生と英会話の練習をしています。

Q 寮生活で楽しいことは？

演劇祭などいろいろなイベントがあり、それを通じてたくさんの仲間ができました。

母国との教育の違いに驚き！
周囲の優しさに助けられます。



郭 汝坤
教育学部 中国出身

China



世界青年の船事業 (内閣府青年国際交流事業)とは？

国際化や多様化が進展する社会でリーダーシップを発揮して、社会貢献を行うことができる青年の育成を目的に実施。外国青年と共同生活をしながら活動を行います。

〔2019年度の主なスケジュール〕

1月11日 オリエンテーション・陸上研修

参加者の自己紹介の他、リーダーシップ論や人工知能に基づく社会についてのセミナー、ディスカッションを実施。

1月16日～ 横浜出港

実行委員として異文化理解のセミナーを企画・運営。まさに文化の違いで困難もありつつ、互いの理解が深まりました。(上原)

日本の地方の魅力を紹介する企画で、海外参加青年に滋賀県の魅力を伝えました。Club Activityでは自身の経験を活かし、剣道を教えることに。(鬼頭)

1月30日～ メキシコ寄港地活動
2月1日

機関や農場を視察し、地元の方々と交流。メキシコの歴史や文化について学ぶと共に、アメリカとの国境の壁を訪れ、陸の国境を持つ国特有の問題について考察。

2月2日～ メキシコ出港

世界共通の社会問題について議論する活動で「平和構築と国際協力」のテーマを選択。世界平和に向けて人類がいかに協力していくかを議論。(上原)

男女の価値観の差異やLGBTQ+に関するセミナーに参加。数多くの気づきや学びがあり「当たり前」を見直す貴重な機会になりました。(鬼頭)

2月17日～ 東京入港・陸上研修

出し物をするTalent showでお笑いに英語で挑戦。文化の異なる人全員が笑えるような内容を試行錯誤し、結果、大成功！(上原)

参加者全員によるセミナーで、貧困と不平等に関する議論を実施。またイベント委員会の副委員長として送別会の企画・運営を率先して行いました。(鬼頭)

詳しくはこちら 内閣府 共生社会政策 青年国際交流 <https://www.cao.go.jp/koryu/>

互いの文化や価値観を 尊重し育んだ友情

上原 裕一朗 経済学部 洛南高校(京都府)



私の夢は、ビジネスの力で貧困問題、格差問題などを解決することです。今回、多様なプログラムに参加したことで、異文化理解力、異文化コミュニケーション能力を鍛えることができました。一番の収穫は、船上で寝食を共にすることで得られた友情だと感じています。今では世界5大陸

にかけがえのない友の顔を思い浮かべることができます。国境を越え、多国籍の人々が関わり、複雑な世界の諸問題を解決するには、相手の文化、習慣、考え方を理解し、協調関係を築く事が重要です。この事業では、その基礎となる力を身につけることができました。



世界が抱える問題を 改めて考えるきっかけに

鬼頭 伸典 経済学部 瑞陵高校(愛知県)



各国の青年と徹底的な議論を通して見聞を広めたいと参加しました。船上では、統計データを利用したリーマンショック前後の相対的貧困率について討論するセミナーを企画。あるメキシコ人女性が、メキシコの人口の約50%はワーキングプアであるため、生活基盤が十分に整備され

ていない環境で暮らし、児童すらも労働を強いられる現状を紹介してくれました。寄港地メキシコでそのような光景を目撃し、衝撃を受けました。貧困問題の根深さやインフラの未整備による生活への弊害を知り、将来は、社会問題を解決したいという決意を新たにしました。



オーストラリアの学生と国際交流



毎年6月に海外交流協定校のディーキン大学(オーストラリア)の学生を約2週間、プロジェクト型スタディツアーで受入れています。ディーキン大学の学生は彦根キャンパスを拠点に、湖東地区の外国人観光客の受け入れ、地場産業(彦根仏壇、日本酒)の海外展開といった課題解決のために聞き取り調査などを行います。滋賀大学の学生も通訳などでディーキン大学の学生と共に活動したり、週末には多賀大社や長浜などに観光ツアーに出かけたりと、交流の機会にもなっています。

